

厚生委員会報告資料

令和2年7月1日

報告事項件名	頁
1 「足立区糖尿病対策アクションプラン」に基づく令和元年度 事業実施結果等の概要報告について・・・・・・・・・・	2
2 思春期ダイケアの実施体制の変更について・・・・・・・・	11

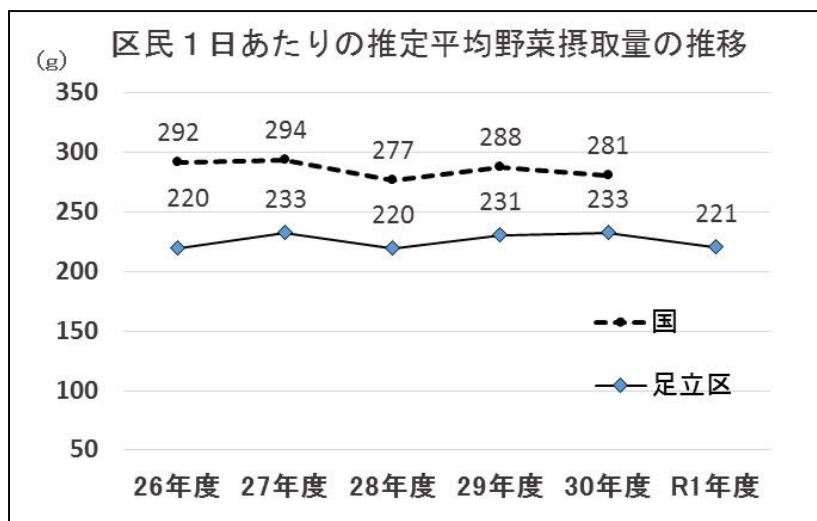
(衛 生 部)

厚生委員会報告資料

令和2年7月1日

件名	「足立区糖尿病対策アクションプラン」に基づく令和元年度事業実施結果等の概要報告について																
所管部課名	衛生部こころとからだの健康づくり課 データヘルス推進課																
内容	<p>「足立区糖尿病対策アクションプラン」3つの基本方針に基づき、令和元年度に行った主な事業の実施結果等を報告する。</p> <p>1 野菜を食べやすい環境づくり</p> <p>(1) あだちベジタベライフ協力店 ベジ・ファーストメニューや野菜たっぷりメニュー等を提供する店舗数…815店舗（令和2年3月末時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開拓委託による新規登録…100店舗 ・ 既存店ののぼり旗等掲示物の点検…40店舗 <p>ア 6月食育月間での「“ちょいサラ”グランプリ」の実施や「50円引き野菜メニュー」の提供…38店舗</p> <p>イ 11月糖尿病月間での「1食500kcal台で、野菜120g以上、塩分3g未満のヘルシーメニュー」の提供…17店舗</p> <p>ウ 朝から野菜が食べられる「ベジタベモーニングメニュー」の登録店舗数…14店舗（令和2年3月末時点）</p> <div data-bbox="466 1227 1337 1787" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">(店) ベジタベライフ協力店 店舗数の推移</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>店舗数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>630</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>624</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>607</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>592</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>815</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>(2) 区民の野菜摂取</p> <p>ア 区が11月に実施した「簡易型自記式食事歴法質問票（BDHQ）による食習慣調査」</p> <p style="padding-left: 20px;">1日あたりの推定平均野菜摂取量…221g （国が示している目安は、1日あたり350g以上）</p>	年度	店舗数	25年度	82	26年度	630	27年度	624	28年度	607	29年度	592	30年度	728	R1年度	815
年度	店舗数																
25年度	82																
26年度	630																
27年度	624																
28年度	607																
29年度	592																
30年度	728																
R1年度	815																

調査開始以来、推定野菜摂取量は微増減を繰り返し、横ばいが続いているが、経年変化を国の国民健康・栄養調査と比較すると、差は縮小傾向にある（国との差 H26：72 g → H30：48 g）。



(3) クックパッド「東京あだち食堂」、A-メール等における啓発

ア A-メールへのレシピ配信数 37 品 累計 312 品

イ レシピ投稿サイト「cookpad (クックパッド)」の足立区公式キッチン「東京あだち食堂」へのベジレシピ掲載数 63 品、累計 241 品、総アクセス数 163 万 5980 件 (令和 2 年 3 月末時点)

ウ 足立成和信用金庫のLINEにて、野菜 100 g レシピ 24 品配信

(4) 北足立市場協会や民間企業等との連携

ア 北足立市場協会との連携

舎人公園千本桜まつりや北足立市場まつりイベントでの糖尿病予防啓発、食育月間でのベジタベ教室の開催、食育の日 (6/19) に合わせた地域の青果店でのイベント実施等

イ 民間企業等との連携

セブン&アイ・フードシステムズ (デニーズ)、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、吉野家、すかいらーく (ガスト、ジョナサンほか)、ビッグボーイジャパン、日高屋、大戸屋、北千住マルイ、ルミネ北千住、カゴメ、山崎製パン、足立成和信用金庫、明治安田生命、JA等でののぼり旗や卓上ポップを活用したベジタベライフの啓発等

2 子ども・家庭の良い生活習慣の定着

(1) 「あだち 食のスタンダード サポート BOOK」の活用

凝った料理を覚えるよりも、簡単であってもバランスのとれた食生活を可能とする実践力=「あだち 食のスタンダード」の定着を目指し、小中学校や学童保育室、高校等で活用

- ・ ごはん・みそ汁編（主に小学生対象） 7,000 部※
 - ・ おかず編（主に中学生対象） 7,000 部※
 - ・ ちょい増し野菜編（主に保護者対象） 10,000 部
- ※については、学務課で作成、配付

(2) 幼稚園等出張栄養教室

保護者には、野菜が身体にとって大切な理由や忙しい朝でも簡単に作れる野菜料理の実演を行い、園児にはパネルシアターや野菜の食べ比べ等の体験型教室を実施

40 回、1,531 人参加（平成 30 年度 38 回、1,398 人）

(3) 学童保育室での料理教室

子どもの食事作りへの関心を高めるため、調理体験教室を実施

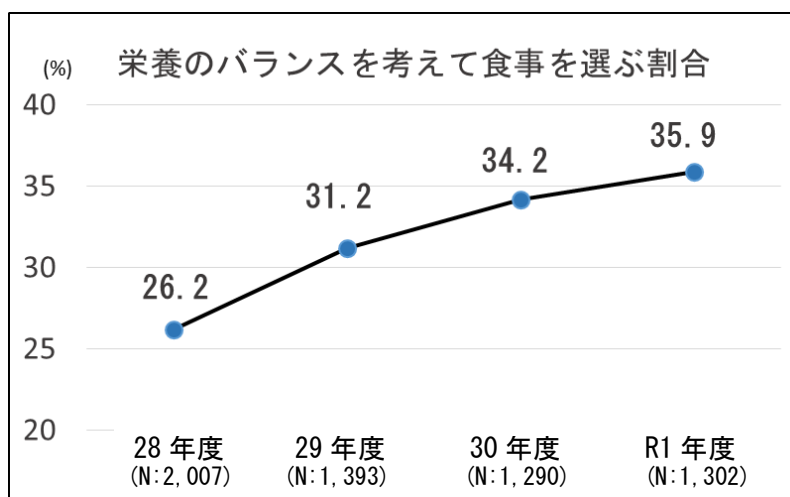
27 回、782 人参加（平成 30 年度 28 回、845 人）※3 月の教室中止

(4) 高校生向け包丁いらずの朝ベジ料理教室

コンビニ等での栄養バランスのよい食事の選び方、朝ベジ料理の実習等、体験を交えた教室を実施

7 校、1,355 人参加（平成 30 年度 8 校、2,140 人）※3 月の教室中止

高校生が栄養バランスを考えて食事を選ぶ割合は、平成 28 年度と比較して 9.7 ポイント増加

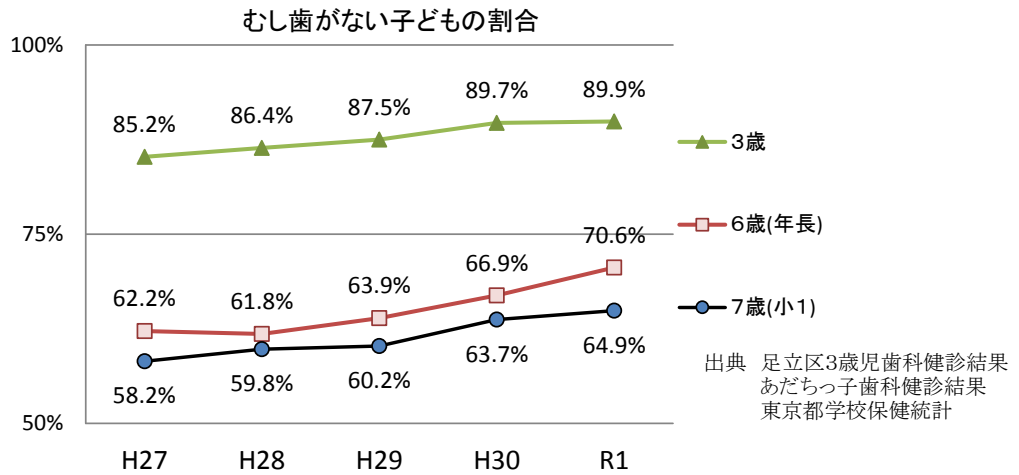


区内都立高校対象・教室実施後アンケート結果より

(5) 子どもの歯科健診結果

ア むし歯がない子どもの割合（3 歳児・年長児・小学 1 年生）

3 歳児 89.9%、6 歳（年長児）70.6%、7 歳（小学 1 年生）64.9%と、すべての年齢で前年度より増加した。

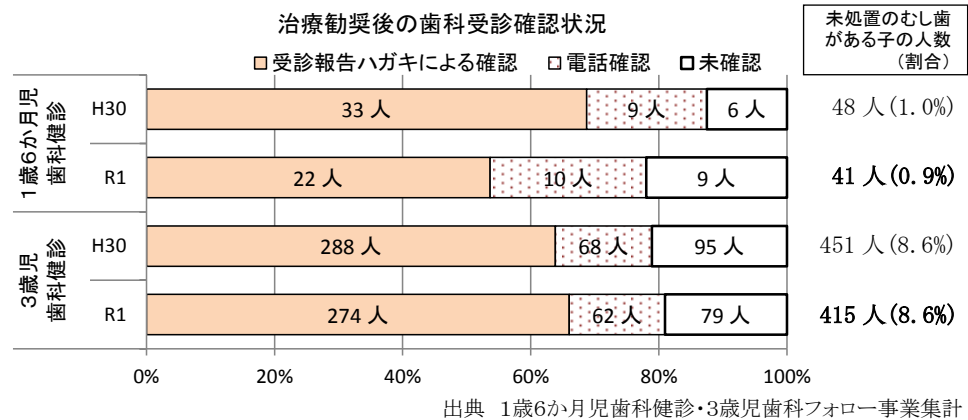


イ 1歳6か月児・3歳児歯科健診フォロー事業の実施

歯科健診の結果、治療が必要な子どもの保護者に丁寧に治療勧奨を行い、ハガキで歯科医療機関の受診確認を行う。健診後2ヶ月経ってもハガキが届かない家庭には、歯科衛生士が電話で確認している。

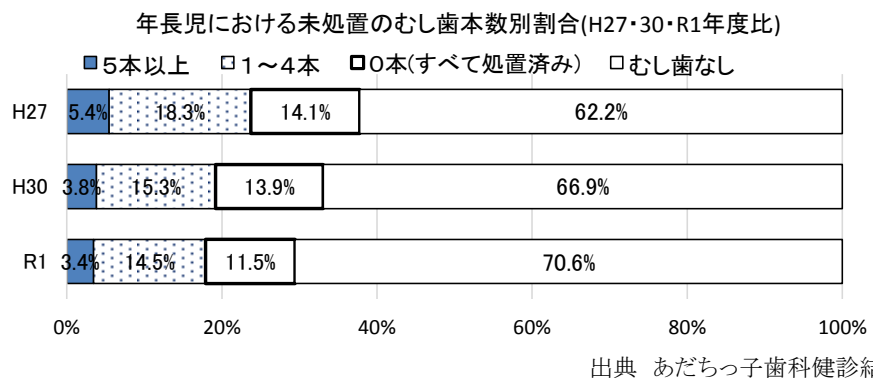
元年度フォロー率 1歳6か月児 78.0% (32/41人)

※4月末時点の比較 3歳児 81.0% (336/415人)



ウ 未処置のむし歯が5本以上ある子どもの割合 (年長児)

未処置のむし歯を5本以上有する年長児の割合は3.4%と、前年度より0.4ポイント減少した。



(6) 未就学期および学齢期における取り組み

ア 年長児・小学1年生対象「6歳臼歯健康教室」の実施

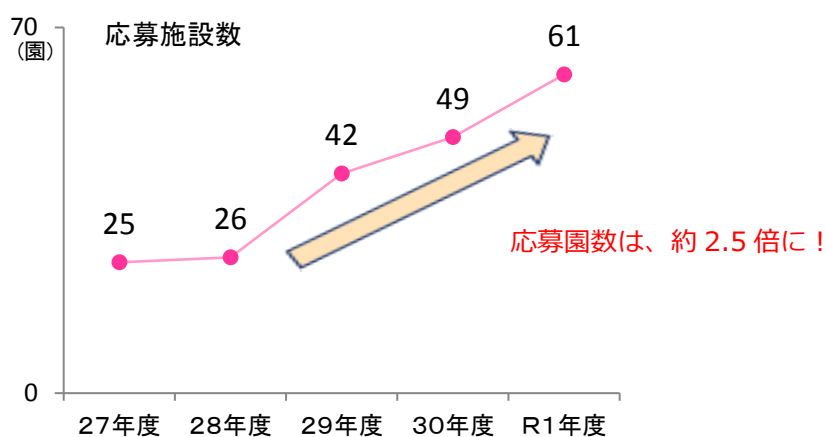
永久歯(6歳臼歯)を健全に育成するため、教育・保育施設、小学校で、足立保健所歯科衛生士によるむし歯予防教室を実施

「6歳臼歯健康教室」実施状況

	実施施設数			
	合計	私立幼稚園	保育施設	小学校
R1年度	212	28	123	61
(30年度)	(193)	(26)	(109)	(58)

イ 「あだちっ子・いい歯推進園表彰事業」の実施

規則正しい食習慣や歯みがき習慣づくり等に積極的に取り組む保育施設や幼稚園を表彰し、広く区民に紹介(応募総数61園)



(7) 家庭・関係機関職員の歯みがきスキル向上の取り組み

ア 仕上げみがき動画作成および動画啓発リーフレット配布

保護者等に仕上げみがきのポイントをわかりやすく伝えるため、「あだち版・仕上げみがき動画(2種類・各約1分)」を作成し、教育・保育施設、保健センター等で啓発リーフレットを配布

イ 「あだち版・子どもの歯みがきマニュアル(改訂版)」作成・配付

子どもたちが自ら歯の健康を守る力の育成を目指して、関係機関職員向けに、年齢・発育に合わせた歯みがき方法や食習慣等をわかりやすく提示した「あだち版・子どもの歯みがきマニュアル(改訂版)」を作成・配付

3 糖尿病重症化予防

(1) 40歳前の健康づくり健診

ヘモグロビンA1c値5.6%以上の方220人に対して、栄養指導・保健指導を実施。さらに2ヵ月後にフォローを実施

年度	健診受診者(人) a	ヘモグロビンA1c値5.6%以上の人数 b (b/a%)	2ヵ月後 フォロー数(人)		
			栄養指導(ヘモグロビンA1c値5.6~6.4%対象)実施数 c (c/a%)	保健指導(ヘモグロビンA1c値6.5%以上対象)実施数 d (d/a%)	
R1	1,324	220 (16.6%)	214 (16.2%)	6 (0.4%)	
				158 (73.8%)	6 (100%)

令和2年5月末時点

(2) 医師会、歯科医師会、薬剤師会の連携による糖尿病合併症予防の仕組みづくり

- ア 協力医療機関数 367 機関（内科 131、眼科 33、歯科 191、薬局 12）
- イ 区管理栄養士が医療機関に出向き栄養相談を行う「栄養相談サポート事業」のモデル実施（2 医療機関、延べ 6 回）

(3) 薬剤師会による糖尿病重症化予防フォロー事業の実施

- ア 区内 12 薬局（※1）において、ヘモグロビンA1c値測定の結果、糖尿病が疑われるヘモグロビンA1c値6.5%以上の区民を医療機関へ受診勧奨

	ヘモグロビンA1c値測定者数 a	ヘモグロビンA1c値6.5%以上の人数 b (b/a%)	受診確認ができた人数 c (c/b%)
足立区民	88 人	11 人 (12.5%)	4 人 ※2 (36.4%)
区外	40 人	5 人 (12.5%)	—

※1 12 薬局のうち 2 薬局は、令和元年 12 月に追加

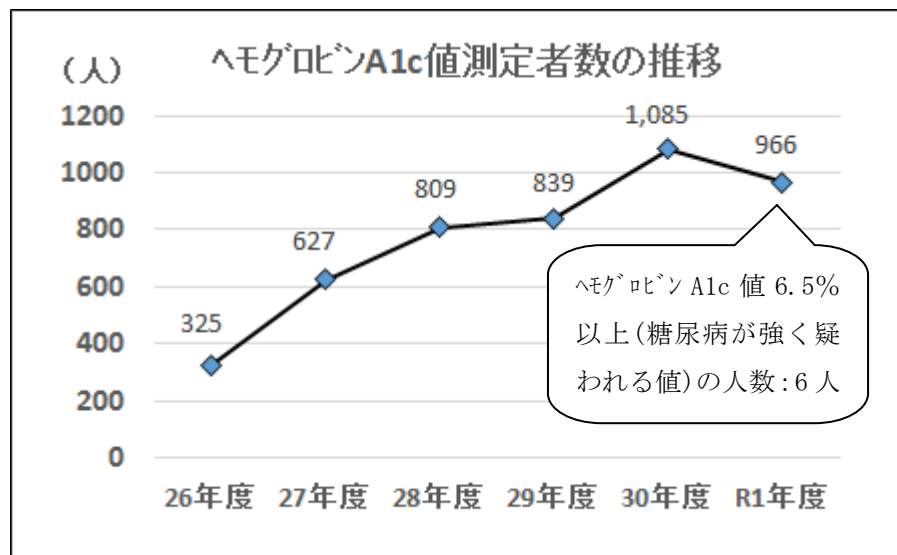
※2 11 人のうち受診確認できなかった 7 人の内訳：すでに病院につながっていた方 3 人、連絡が取れない方 4 人

- イ 薬局でのヘモグロビンA1c値測定とベジタベライフを合わせた啓発用ティッシュを作成(10,000 個)し、薬局や各種イベントで配布

(4) 各種イベントでのヘモグロビンA1c 値測定

ふれあいキッズデー、L・フェスタ、糖尿病週間、健康フェスタ（東京電機大学イベント）、保健センター健診事業等での測定…966人

※台風により区民まつり中止、新型コロナウイルス感染症の影響で2～3月の保健センター健診事業等での測定中止



(5) 糖尿病・成人眼科健診（※令和元年度より名称変更）

生活習慣や加齢に伴う眼科疾患(糖尿病網膜症、緑内障、白内障、加齢黄斑変性等)を早期に発見して進行を予防するため、対象者全員に受診券を送付

ア 対象者

(ア) 45歳・50歳・55歳の足立区国民健康保険加入者で、次のいずれかの条件に該当する方

- ① 前年度の足立区国民健康保険特定健診を受診しなかった方
- ② 前年度の足立区国民健康保険特定健診を受診し、ヘモグロビンA1c値5.6%以上で眼底検査を受診したことがない方

(イ) 60歳と65歳の区民全員（前年度の足立区国民健康保険特定健診眼底検査受診者を除く）※令和元年度より65歳を追加

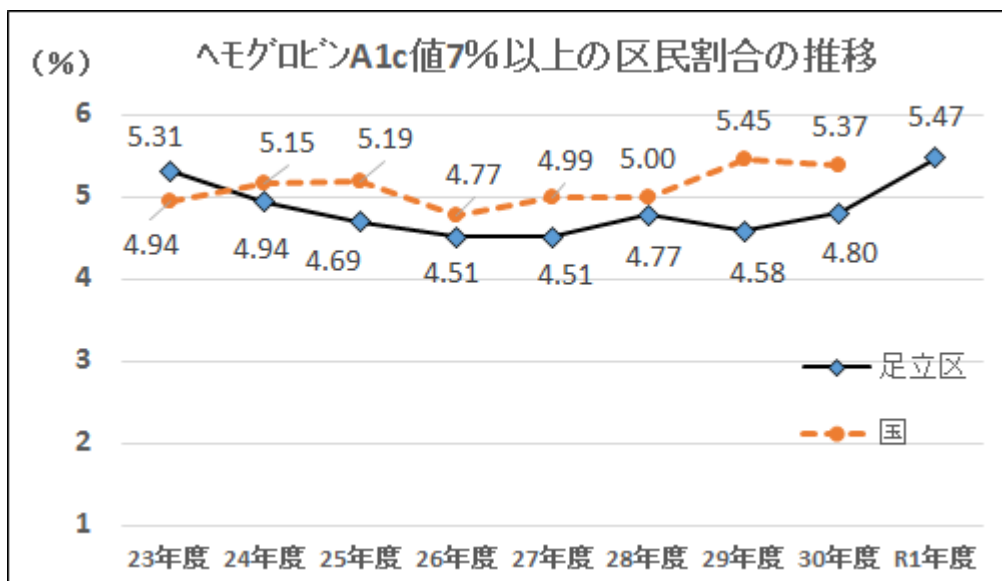
イ 受診者数

年度	対象者数	受診者数	受診率
R1	19,356人	2,941人	15.2%
H30	12,882人	1,619人	12.6%

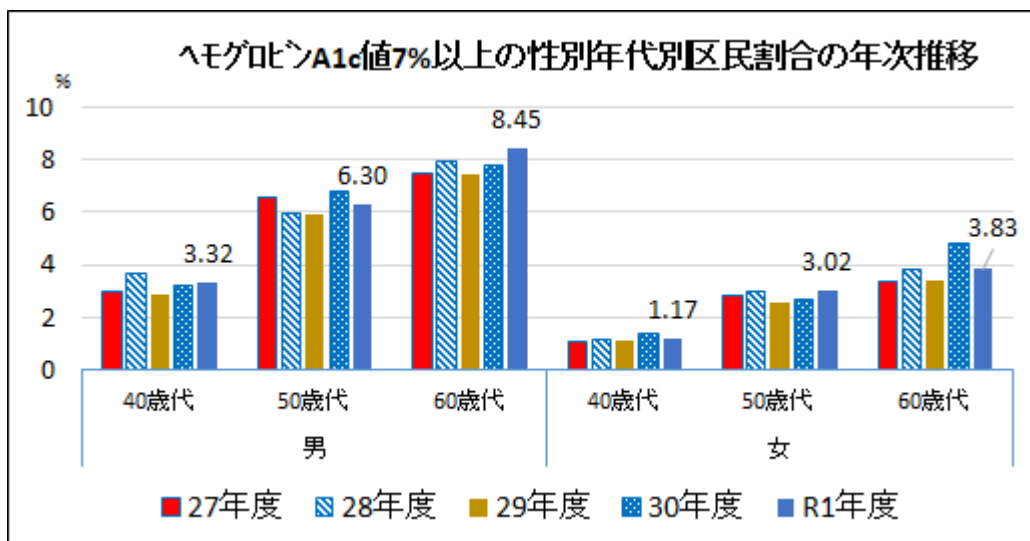
(6) ヘモグロビンA1c 値7%以上の区民（足立区国保 40～74 歳の特定健診受診者のうちヘモグロビンA1c 値7%以上の者）の割合

ヘモグロビンA1c 値7%以上の区民の割合は、昨年度に比べ0.67ポイント増加した。ここ数年の経済状況の影響により、国保から社保へ転出した方が多く、特に若い世代の国保被保険者が減少し、健康課題のある方が国保に残っている傾向がある。

性別年代別に見ると、どの年代でも男性の割合が高く、50代から数値が急激に増加している。



【参考】



問 題 点 今後の方針	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、「糖尿病対策アクションプラン」の3つの基本方針に基づき、対策を進めていく。</p> <p>野菜を食べやすい環境づくりでは、ベジタベライフ協力店の新規開拓委託による店舗数の拡大や質の向上を図る。また「自宅で出来るちよい増し野菜」の啓発を行う。さらに、重症化予防については、データヘルス推進課と連携し、ハイリスク者への対策を行うとともに、40歳前の健康づくり健診等を活用し、高齢期に至る前の若年者の重症化予防を進めていく。</p>
----------------	--

厚生委員会報告資料

令和2年7月1日

件名	思春期デイケアの実施体制の変更について																																																																								
所管部課名	衛生部足立保健所中央本町地域・保健総合支援課																																																																								
内容	<p>保健センターでの思春期デイケアは、これまで竹の塚保健センターと江北保健センターの2か所で行っていたが、江北保健センターでは新規利用の申込みがないため、竹の塚保健センター1か所での集中実施を行う。</p> <p>1 経過</p> <p>思春期デイケアは若年精神障がい者の社会参加・社会復帰を目的に、平成13年度から実施してきた。平成18年の障害者自立支援法（現障害者総合支援法）施行後、自立支援給付サービスや日中活動場所等の社会資源が増え、通所施設の利用者が広がったことに伴い、思春期デイケアの利用者は徐々に減少した。平成30年度に5保健センターから、竹の塚保健センターと江北保健センターの2か所に集約した。</p> <p>(1) 思春期デイケアの概要</p> <p>ア 対象 義務教育終了後～概ね30歳位までの精神疾患で通院中の者</p> <p>イ 開催日程 週2回の半日ずつ</p> <p>ウ 主なプログラム内容 社会生活技能訓練（ロールプレイング等）、作業療法（料理、作品制作等）、運動療法、社会施設見学（就労継続事業所等）</p> <p>2 最近の実績と実施体制の変更について</p> <p>江北保健センターでは新規利用者および出席率も減少し、休止している。一方、思春期デイケア卒業時には、約7割の者を就労等社会資源につなぐことができているため、今後は1か所での実施に変更する。</p> <p>(1) 利用者数の推移（平成30年4月～令和2年3月分）</p> <table border="1"> <caption>思春期デイケア利用者数の推移 (平成30年4月～令和2年3月分)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>竹の塚人数</th> <th>江北人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30.4月</td><td>9</td><td>8</td></tr> <tr><td>5月</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>6月</td><td>8</td><td>6</td></tr> <tr><td>7月</td><td>8</td><td>6</td></tr> <tr><td>8月</td><td>8</td><td>5</td></tr> <tr><td>9月</td><td>7</td><td>4</td></tr> <tr><td>10月</td><td>8</td><td>4</td></tr> <tr><td>11月</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>12月</td><td>11</td><td>3</td></tr> <tr><td>1月</td><td>10</td><td>3</td></tr> <tr><td>2月</td><td>9</td><td>3</td></tr> <tr><td>H31.4月</td><td>11</td><td>0</td></tr> <tr><td>5月</td><td>13</td><td>0</td></tr> <tr><td>6月</td><td>9</td><td>0</td></tr> <tr><td>7月</td><td>8</td><td>0</td></tr> <tr><td>8月</td><td>4</td><td>0</td></tr> <tr><td>9月</td><td>6</td><td>0</td></tr> <tr><td>10月</td><td>7</td><td>0</td></tr> <tr><td>11月</td><td>6</td><td>0</td></tr> <tr><td>12月</td><td>6</td><td>0</td></tr> <tr><td>1月</td><td>10</td><td>0</td></tr> <tr><td>2月</td><td>12</td><td>0</td></tr> <tr><td>3月</td><td>12</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	月	竹の塚人数	江北人数	H30.4月	9	8	5月	8	8	6月	8	6	7月	8	6	8月	8	5	9月	7	4	10月	8	4	11月	8	3	12月	11	3	1月	10	3	2月	9	3	H31.4月	11	0	5月	13	0	6月	9	0	7月	8	0	8月	4	0	9月	6	0	10月	7	0	11月	6	0	12月	6	0	1月	10	0	2月	12	0	3月	12	0
月	竹の塚人数	江北人数																																																																							
H30.4月	9	8																																																																							
5月	8	8																																																																							
6月	8	6																																																																							
7月	8	6																																																																							
8月	8	5																																																																							
9月	7	4																																																																							
10月	8	4																																																																							
11月	8	3																																																																							
12月	11	3																																																																							
1月	10	3																																																																							
2月	9	3																																																																							
H31.4月	11	0																																																																							
5月	13	0																																																																							
6月	9	0																																																																							
7月	8	0																																																																							
8月	4	0																																																																							
9月	6	0																																																																							
10月	7	0																																																																							
11月	6	0																																																																							
12月	6	0																																																																							
1月	10	0																																																																							
2月	12	0																																																																							
3月	12	0																																																																							

(2) 利用者出席率の推移 (%) (平成30年4月～令和2年3月分)

H30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
竹の塚出席率	56.8	61.7	55.6	42.0	38.3	57.1	49.4	33.3	41.7	52.8	36.4	51.4
江北出席率	76.4	64.6	56.3	50.0	55.6	50.0	60.0	46.4	37.5	40.0	40.0	40.0
H31年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
竹の塚出席率	61.1	52.3	44.4	43.2	38.9	50.0	50.0	48.2	64.6	64.6	45.7	42.6
江北出席率	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(3) 卒業後の進路 (平成30年4月～令和2年3月分 卒業生20人)

就労等社会資源					中断	その他
就労	自立支援事業所 (就労移行、就労継続)	職業訓練	その他のデイケア	進学		
1人	6人	1人	4	1人	5人	2人 (転居、未定)

3 思春期デイケアを1か所で開催するにあたり留意する点

- (1) 各保健センター等のチラシ、ホームページなどを活用し、区民と関係機関に思春期デイケアの周知を徹底する。
- (2) 5保健センターのネットワークを利用し区内全域を対象として受け入れ、精神疾患発病直後の若年者を早期に支援し、疾患の再発や障がいの重症化を防ぎながら、就労等社会資源につなげる。
- (3) 対象者の情報を地元の保健センターと共有し、本人及び家族を支援していく。

問題点
今後の方針

若年精神障がい者を就労等社会資源につなげていく受け皿は少ないため、今後も思春期デイケアを区全域対象に実施していく。